



20年間の取組 7つの地域、7つの物語

7つの協議会では、それぞれ異なる地域資源や課題、歴史を背景に活動し、住民主体の活動を進めるとともに、地域外との関係創出や、地域においての意思決定など、地域における多様な役割を担ってきました。



日野上 大イチョウやJR生山駅を核とした地域資源の活用。地域の誇りを共有する場を形成。



山 上 福万来のホテルを核とした交流事業。自然資源を「関係を生む資源」へ転換。



阿毘縁 自治会再編を経た地域運営の再構築。協議会が「調整装置」として機能。



大 宮 たたらの楽校を核とした学びと交流。地域の歴史・文化を次世代へ継承。



多 里 NPO法人と連携し、共助交通や買い物支援など持続可能な地域運営を実践。



石 見 マラソン・グラウンドゴルフ等スポーツ振興。交流・健康・地域活力を結ぶ。



福 栄 井上靖の文学資源・かしら打ち等伝統芸能。地域の記憶と物語を共有・継承。

「地域を守る」から 「価値を創り、未来へつなぐ」地域自治へ

この20年間で、地域自治の土台は育まれてきました。一方で、人口減少や少子高齢化が進み、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

これからは、地域の実情に合わせて、協議会の役割や体制を柔軟に見直ししながら、地域づくりを進めていくことが大切です。

①何を継続するか

防災や見守り、福祉、地域交流など、暮らしの安全・安心と地域のつながりを支える機能を維持します。

②何を組み替えるか

地域同士の連携や役割分担、事業の見直しを進め、「増やす」だけでなく「減らす・やめる」視点も取り入れた、無理のない地域運営を目指します。

③何を新たに担うか

大学や企業、地域外の人材との連携を深め、デジタル技術や地域資源を生かした新たな価値づくりを進めます。町は、交付金や事務局支援、人材育成、大学連携などを通じて、地域に寄り添った支援を続けます。

行政と地域が力を合わせ、人口減少社会に賢く対応するまちを創っていきます。

